

第5・6学年 国語科複式学習指導案

児童 第5学年 男1名 女2名
第6学年 男1名 女1名 計5名
指導者 吉田 淳子

1 単元名

工夫して発表しよう (パターンB-2)

2 教材名

「わたしたちの吉ヶ沢小」

3 教材について

(1) 教材観

本教材は、光村図書の5年「話の組み立てを考え、言葉遣いを考えてたずねよう『インタビュー名人になろう』」と6年「工夫して発表しよう『わたしの六年間』」をもとにして、児童の実態を考慮して題材を工夫したもので、第5・6学年同内容で学習をするものである。

本学級は、2組の兄弟姉妹と1人の女子児童で構成されており、1年おきにこのメンバーが揃ってきたという経緯がある。6年生児童が卒業するに当たり、兄弟姉妹が揃うのも、今年度限りである。今後の彼らの学校生活においても、その可能性は極めて低いと思われる。このことを1つの節目と考え、5年生にとっても、6年生にとっても、これまでの小学校生活を振り返る良い機会と考える。そこで、今回、これまでの小学校生活を振り返り、いちばん心に残る思い出を題材としてスピーチするという学習を組むこととした。

ここでは、聞き手に印象付けるスピーチをするために、どのような工夫をすればよいかを学習する。自分らしさが表れる題材を選び、伝えたい思いが聞き手に伝わるように話の組み立てを工夫することが重要となってくる。

学習活動は、3つに分けられる。1つ目は、昨年度のスピーチを振り返るとともに、今年度目指すスピーチのあり方を学ぶこと、2つ目は、自分らしさが表れる題材を選び、スピーチメモをもとに、スピーチの組み立てを考え、練習すること、3つ目は、練習の成果を生かし、発表会でスピーチをすることである。

これらの活動をとおして、第5・6学年の「話すこと・聞くこと」に関する指導目標の「目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにする」ことを目指し、内容「ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」に重点を置き、指導する。

【5つの言語意識について】

相手意識	...	保護者の方々に
目的意識	...	自分の成長を分かち合ってもらうために
場面・状況意識	...	学校で、発表会として
方法意識	...	メモを見ずに、資料を活用したりしてスピーチする。
評価意識	...	ビデオを見て振り返る。 友だちや保護者の方々の感想を聞き、スピーチを振り返る。

(2) 児童観

先に述べた通り、本学級は、2組の兄弟姉妹と一人の女子児童で構成されており、1年おきにこのメンバーが揃ってきたという経緯がある。非常に稀なケースであり、児童にとって、貴重な経験と言える。

前々年度、このメンバーが中学年であった時には、「兄とぼくと弟と」「姉とわたしと妹と」という関連教材で、スピーチ発表会を行っている。それぞれの児童が、3～4人の兄弟姉妹であることから成り立った教材である。

兄弟姉妹がクラスメイトであることのメリット、デメリット、そして、1人の女子児童が疎外感を味わうことのないように…と、配慮すべき点がある。本教材での学習を進める上でも、十分に配慮していきたい。

本校では、児童朝会や音読集会、休み明け体験発表会、児童総会、全校総会、委員会活動、クラブ発表会等を通し、自分の考えを発表したり、友だちの発表に質問したり、感想を述べたりしながら、日常的に「話すこと・聞くこと」の活動を行っている。また、学級では、朝の会でのスピーチを週に一度担当し、「飼い犬のこと」「牛の世話をした気付いたこと」等、年間を通したテーマでスピーチを行っている。その結果、話すことへの抵抗が大分なくなり、意欲的に話すようになってきている。

しかし、選択を問われた場合の意思表示はできるが、その根拠や思考過程を明確に説明することができる子どもは一部である。多くは、断片的な発言となり、意図を聞き手にはっきりと伝えたり、要点をまとめて話したりすることは不得手である。また、資料を用いての発表では、資料に書かれている内容を読むだけに終わる子が多く、相手にわかるように説明を付け加えたり、例示して説明したりすることのできる子どもは限られている。

自分の考えを大勢の人を前にして口頭で発表するという経験が、かなり不足しているのも事実である。人間関係が固定化している日常において、いつもの仲間とは違った対象に向かってスピーチをするということは、容易なことではない。学習過程において、大勢の参加者の先生方を前に、スピーチの練習をするということは、相当な心理的な緊張感を伴うことが予想される。とは言うものの、これから社会へと出て行く子どもたちにとって、今回の経験は、必ずや貴重で意義深いものになると思われる。

(3) 指導観

聞き手の印象に残るスピーチをするためには、より効果的な伝達の過程を踏むことが必要となる。何のために 目的、何を 内容、誰に 対象、どのように 手段、伝えるのか、これらをよく検討した上で、より効果的に表現する工夫をさせたいものである。

スピーチの技能は、なかなか定着しにくいいため、発表の機会を多く設定し、時や場を変え、経験を積み上げていくことが必要である。そこで本教材では、発表会を2回設定し、学級内でのスピーチ、保護者の方へのスピーチの場を設定する。学習の節目毎に自分のスピーチを振り返ったり、互いのアドバイスを生かしたりすることで、より聞き手の印象に残るスピーチになるようにしていきたい。

模範VTRをもとに、聞き手の印象に残るスピーチをするための話の組み立て方や話し方について学習させる。併せて、音声言語だけでなく、写真、絵、VTR、インタビューした録音テープ等の視聴覚資料を提示することが、自分の思いや考えを相手に伝える上でより効果的であることも理解させていく。

(4) 仮説との関わり

・同単元同内容学習について

スピーチの練習をする際の相手意識を高めるため、また、スピーチに対するアドバイスをし合う活動に広がりや深まりを出すため、異学年同単元同内容による学習形態を組むことが必要である。また、5、6年生を交えたグループ学習を組むことにより、6年生が既習事項を生かして、5年生へアドバイスしたり、良き手本となったりして、活動をリードしていくことができ、学習効果を高めることができる。

・支援表の活用について

児童一人ひとりに合った題材の選択が、学習の流れの大きな鍵を握る。十分な時間を確保し、一人ひとりに自分の最も伝えたい題材を選択させるとともに、その選択理由がよく伝わるように、話の組み立てや発表の仕方の工夫についてアドバイスをしていく必要がある。

以上の活動において、「支援表」を活用し、児童一人ひとりの学習状況と本時の支援を記録し、次時に向けての手立てを講ずることで、学習効果を高めることができるものと思われる。

(5) 単元の目標

【関心・意欲・態度】

小学校生活を振り返って、いちばん印象に残っていることを、聞き手の心に印象付けるようにスピーチをしようとする。 (5・6年共通)

【話すこと・聞くこと】

〔5年〕

小学校生活の心に残る思い出を、聞き手に印象付けるように、話の組み立てを工夫してスピーチすることができる。(ア)

〔6年〕

小学校生活の心に残る思い出を、聞き手に印象付けるように、話の組み立てや発表の仕方を工夫してスピーチすることができる。(ア)

【言語についての知識・理解・技能】

文や文章にはいろいろな構成があることについて理解することができる。〔オ(ア)〕

(5・6年共通)

(6) 単元の評価規準

	5年	6年
関心・意欲・態度	小学校生活を振り返って、最も心に残っている題材を選定し、聞き手の心に印象付けるため、導入の仕方を工夫する等、組み立てを工夫してスピーチしようとしている。	
話すこと・聞くこと	小学校生活のいちばん心に残る思い出を、聞き手の心に印象付けるように、導入の仕方を工夫する等、話の組み立てを工夫して効果的にスピーチしている。	小学校生活のいちばん心に残る思い出を、聞き手の心に印象付けるように、導入の仕方を工夫する等、話の組み立てを工夫したり、発表の仕方を工夫したりして効果的にスピーチしている。
言語についての知識・理解・技能	文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。	

(7) 指導と評価の計画(7時間扱い)

次	時	学習内容と主な活動	学習活動における具体的評価規準		
			関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての知識・理解・技能
一	1	VTRを見て、昨年度の自分のスピーチを振り返る。	効果的にスピーチをする際に大切なことを見	効果的にスピーチをする際に、大切な点や題材の選び方を	

		模範VTRをもとに、今年度のスピーチの目標をもつ。	つけようとしている。	理解している。	
二	1	題材を決定し、取材活動を行い、スピーチメモを作る。 ・必要な資料集め ・スピーチメモ作り	自分らしさが表れる題材を選ぼうとしている。	自分らしさが表れる題材を決定し、スピーチメモを作っている。	
	2	スピーチメモをもとに、構成を工夫する。 ・題材の選定理由 ・話し始めの工夫（結論から、山場から、問いから、対比から等） ・内容、終わり	効果的なスピーチの組み立てを考えようとしている。	スピーチの初めや順序等、効果的な組み立てを工夫している。	文や文章には、様々な構成があることを理解している。
	3	スピーチの組み立て(内容)についてアドバイスし合いながら、スピーチの練習(1)をする。 (本時)	聞き手の心に印象付けるように、組み立てを工夫してスピーチの練習をしている。	(5年) スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したりしている。----- (6年) スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したり工夫を加えたりしている。	文や文章には、様々な構成があることを理解している。
	4	スピーチの仕方(技術)についてアドバイスし合いながら、スピーチの練習(2)を行う。	アドバイスを生かし修正した内容について、スピーチの仕方を工夫しようとしている。	アドバイスをもとに、修正したり工夫を加えたりした内容を、より効果的に伝えるため、スピーチの仕方を工夫して練習をしている。	適切な発音、声量、速度を理解している。 丁寧な言葉遣いで話すことを理解している。
三	1	学級内で、スピーチ発表会(1)を行う。(録画) 自分のスピーチを振り返る。	メモを補助的に使い、聞き手の心に印象付けるスピーチをしようとしている。	(5年) メモを補助的に使い、聞き手の心に印象付けるように、組み立てを工夫しながらスピーチをしている。----- (6年) メモを補助的に使い、聞き手の心に印象付けるように、組み立てや発表の仕方を工夫しながらスピーチしている。	適切な発音、声量、速度を理解している。 丁寧な言葉遣いで話すことを理解している。
	2	保護者の方をお招きして、スピーチ発表会(2)を行う。 学習のまとめをする。	メモを見ずに聞き手の心に印象付けるスピーチをしようとしている。	メモを見ずに、聞き手の心に印象付けるようにスピーチをしている。	適切な発音、声量、速度を理解している。 丁寧な言葉遣いで話すことを理解している。

4 本時の指導

(1)目標

〔5年〕

スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したりすることができる。

〔6年〕

スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したり工夫を加えたりすることができる。

(2)本時の展開

段階	学習活動	支援（*）と 評価規準（A・B）	
		5年	6年
導入 3分	1 学習課題を確認する。 組み立てを考えて、スピーチをしたり、アドバイスをしたりしよう。	* 本時は、「内容」と「組み立て」（内容に関わること）について、次時は、「話し方」「言葉の使い方」「表現の工夫」（技術的なこと）について聞き取り、アドバイスすることを確認させる。	
展開 35分	2 グループ内でスピーチ(1)をする。 ・6年A男、5年C男、5年D女 ・6年B女、5年F女 ・グループ内でアドバイスし合う。 3 アドバイスを生かし、スピーチを修正したり、工夫を加えたりして、スピーチの練習をする。 4 グループ内でスピーチ(2)をする。 ・VTRに録画する。	A スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したり工夫を加えたりしている。 B スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したりしている。	A スピーチの組み立てについて具体的にアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したことによる効果について気付いたりすることができる。 B スピーチの組み立てについてアドバイスをしたり、アドバイスを受けて修正したり工夫を加えたりしている。
終結 7分	5 本時の学習の成果を確認する。 6 次時の学習内容の確認をする。	* 本時、アドバイスをしてもらい、どのような修正や工夫を加えたかを確認させる。 * 次時は、「話し方」「言葉の使い方」「表現の工夫」（技術的なこと）について聞き取り、アドバイスし合うことを確認させる。	

* 板書計画

F	D	C	B	A	
					今日の成果
					アドバイスの内容
					成果

学習課題
わたしたちの吉ヶ沢小

組み立てを考えて、スピーチをしたり、アドバイスをしたりしよう。

アドバイスの観点

話の内容について

一 内容

- ・ 選んだ理由
- ・ 心に残ったこと
- ・ 自分がどう変わったか

二 組み立て

- ・ 初めのひきつけ方
- ・ 中
- ・ 終わり

話し方について

三 話し方

- ・ 自然な身振り、手振り
- ・ 声の調子
- ・ 声の大きさ
- ・ 速さ

四 言葉の使い方

- ・ 言葉づかい

五 表現の工夫

- ・ 様子を伝える工夫

* 座席表

